

目的 近年、ファッションが多様化、個性化する中で、最近の女性の社会的地位の向上により、女性の服装にマニッシュなものが増えている。従って、男性の女性に対する服装の価値観も変化しているものと推察される。そこで、男子大学生と女子大学生から見た女子の服装に対するイメージについて調べ、比較検討した。

方法 最近のファッション雑誌の中から無作為に女子大学生に相当と思われる服装デザイン251種を選び、類似したものは除くなどして20種の異なる服装デザインを抽出して試料とした。男子大学生と女子大学生を被験者としてSD法による5段階評価で、文献などより抽出した服装イメージに適切な15組の形容詞対を用いてイメージ調査を行った。

結果 各イメージ用語に対する平均値と標準偏差を算出した。各標準偏差は男子大学生0.4024~1.4259、女子大学生0.4191~1.3377、女子短大生0.4722~1.2992であり、男子大学生のバラツキは若干大きいことがわかった。平均値によるイメージプロフィールを比較すると、デザインの種類によって男子大学生が女子大学生に比べて『女性的』『上品な』『美しい』イメージをより強く抱くもの、逆に『スポーティ』『活動的な』イメージは女性ほど強く感じないものなど異なることがわかった。そこで、バリマックス法による因子軸の回転を行い、因子分析した結果、男子・女子大学生とも、第1因子に活動性の因子、第2因子にファッション性の因子が抽出されたが、第3、第4因子には男子大学生、女子大学生、女子短大生のいずれも異なった因子が抽出され、第4因子までの累積寄与率は男子大学生83.1%、女子大学生86.4%、女子短大生92.0%と異なった値を示した。